

米国環境ビジネスを牽引するカリフォルニア州 ～3つの環境ビジネスイベントから～

オバマ大統領が就任後にグリーンニューディール政策と言われる環境技術、環境ビジネスの振興策を打ち出して以来、1年近くになるうとしています。金融危機に端を発した景気後退の中で、2009年には、政府による支援策を背景に、米国の多くの産業が低迷からの脱却の突破口として環境関連技術への注力、同市場への参入を図る傾向が見られました。

そうした中で、カリフォルニア州は、以前から環境規制が厳しい州、あるいは代替エネルギー導入に向けた取り組みに積極的な州として知られ、米国でも環境ビジネスで大きな存在感を持つ州と言えます。

当センターでは、昨年、同州内でのいくつかの環境関連イベントについて調査を行いました。いずれも米国における環境ビジネスへの関心の高まりと同州が米国内の環境ビジネスを牽引する様子を垣間見ることができましたので、それらイベントについてご紹介したいと思います。

＜電気自動車の普及に向けた技術連携、汎用性の進展を印象付けた「プラグ・イン2009」＞

2009年8月中旬に、カリフォルニア州ロサンゼルス市郊外のロングビーチ市で開催されたイベント「プラグ・イン (Plug-In) 2009」は、専門家向けのセミナーや展示会のほか、一般公開日も設けられ、電気自動車やハイブリッドカーの開発動向や将来性に関心を寄せる専門家、一般市民らで大きな賑わいを見せました。電気を利用して走行する自動車の普及には、動力源となる蓄電池や充電設備などの技術のさらなる技術革新が鍵を握るとみられていますが、2年目の開催ながら、700名の専門家や35にのぼる出展団体・企業、60のメディアなどが集い、活発な商談、情報交換の様子が見られました。とりわけ、展示会場内では、多くの出展企業が自社の技術を単体で紹介するのではなく、他社の技術、システムを組み合わせることにより、日常生活での実利用をより想定した形で紹介する事例も多くみられ、企業間でのビジネス連携や汎用性への対応が進みつつある様子が窺われました。

＜太陽エネルギー関連ビジネスで世界を牽引するカリフォルニア州を印象付けた「ソーラー・パワー・インターナショナル2009」＞

2009年10月下旬にロサンゼルス市郊外のアナハイム市で開催された「ソーラー・パワー・インターナショナル2009」は、代替エネルギー分野で存在感を増すカリフォルニア州の勢いを象徴する展示会となりました。太陽エネルギー発電協会 (SEPA) と太陽エネルギー産業協会 (SEIA) の共催により行われたこの展示会は、今年で6回目を迎え、主催者によれば、今年には27,000人ほどが来場し、933団体が出展、500団体がキャンセル待ちであったとのこと。また、2010年はロサンゼルス市内のより大きな施設に会場を移すとのことですが、すでに90%の出展スペースが予約済とのこと、出展団体数が2007年には200団体、2008年

には422団体であったことを踏まえると、その規模は倍々で拡大し、参加が相次いでいる様子が窺えます。

この展示会には、日本、ドイツ、スペイン、中国、台湾など海外からの参加企業も急増してきており、カリフォルニア州を舞台に、世界規模で環境ビジネスが活発に行われつつあります。展示会では、多くの出展者が政府や地方政府などの支援や技術の進歩によりビジネス展開しやすい状況が生まれている点に触れ、太陽エネルギー産業が力強く成長中であることや、今後のビジネス拡大に期待を寄せる声が多く聞かれました。



ソーラー・パワー・インターナショナル2009展示会の様子

<環境ビジネスのアカデミー賞を目指す「クリーン・テック・オープン・アワード2009」>

2009年11月中旬、カリフォルニア州サンフランシスコ市内で「クリーン・テック・オープン」と呼ばれる環境ビジネスの優秀なアイデアを表彰するイベントが行われました。米国でも多くの投資家が拠点を持ち、新規事業への投資が活発に行われることで知られるカリフォルニア州北部のベイエリア（サンフランシスコ周辺地域）ですが、2006年に始まったこのイベントには、投資家や大手エネルギー企業、また、環境ビジネスの拡大を図る大企業などがスポンサーとして名を連ね、このイベントを支えてきています。優れたアイデアや技術を持つ起業家らが参加登録し、選考過程で候補に残ると投資家や大手企業からのアドバイスなどが受けられるほか、最終審査で最優秀賞、優秀賞に選ばれると最高25万ドル（約2,250万円）の賞金が与えられるなど、投資や事業パートナーの獲得につなげたい起業家にとっては大きなビジネスチャンスとなっています。

イベント当日は、最終審査に残った企業の紹介や展示会なども行われ、商談や情報交換が活発に行われましたが、環境ビジネスでのアカデミー賞とも呼ばれるこの「クリーン・テック・オープン」は、環境ビジネスの拡大とともに、今後、その注目度も一層高まることが予想されます。

カリフォルニア州は、エネルギー生産において太陽光(Solar PV)、バイオマス(Biomass)、地熱(Geothermal)、集光型太陽熱エネルギー(CSP)の分野で全米第1位、風力発電(Wind)、水力発電(Hydropower)の分野で同第2位を誇るほか、州政府の環境対応への積極的な取り組みや環境技術、代替・再生エネルギー関連技術への民間資本の活発な投資が行われるなど、これまでに環境ビジネスで他州をリードしてきた州と言えますが、以上の3つのイベントのみならず、州内での多くの環境関連イベントも規模拡大の傾向にあるなど、この分野での同州の存在感は益々大きなものとなりつつあります。

経済低迷の中で環境関連ビジネスへの注目が世界的にも高まった2009年でしたが、景気回復へのステップの年として期待される2010年には、環境関連ビジネスが北米経済の刺激剤として機能する可能性が一層高まってきています。当センターにおいても、引き続き米国、そしてカリフォルニア州の環境ビジネス動向について注視していきたいと思っております。